宇治巻 全

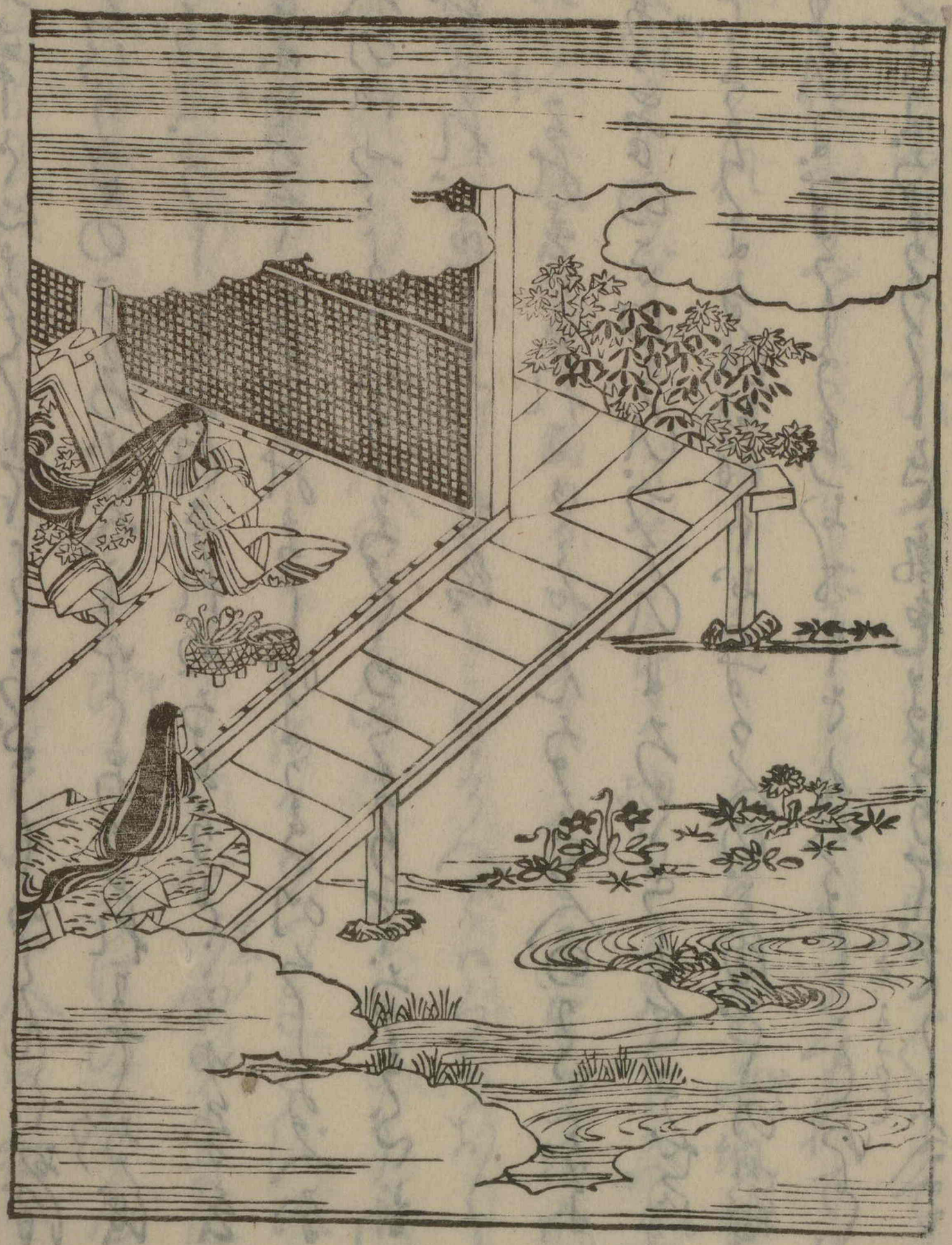
哥と詞と名ならむ

[V. 48]

PL788
.4
.G4
1654
vol. 48
copy 1
Asian
Japan
case

2004551302

やどりつれば春のひ
でくるごとくなりけん
ものこおぼしのまゝ
のろをもれをもおろ
こころこと(大きと)もおぼ
心ばそさ也のうさ
あるをみしてまそ
うさこと哀なるみ
まよろびそこそ
のおりまぶるまや
ぬそうてゆくさきもあ



（ゆふ）大事とふとぶとくてん
そばうのころろぐ
ざりこそこもおば
の葉をめでくこれも
人のれみこころいこそ
こぼうれがきもうくめうてうぐも
（中）これまいれまうんうんのうこと
（中地）ひめうのさつびうこ
ひとうろくこそもそ
ひとうすうの・ぐの出
おまひよすやもうこもいと
（大元ニあるかと）あてよそうこ乳色よそうてぐ

白

旬
もみぢ葉のうつろふ秋のうらさびて
おもふもつらしかぜのおと哀をもよほす
さ風ぐるまのひゞきにも落れさ夜のねざめ
なりて
夢
ゆめぢはあまりてかなしもろともに
よるだにすごしつゝ
白
ひまおくこゝろしらるれ
中
ふらくにも
そゝりてもんとするに
落葉
落葉をいとうわれのこゝろもかなしまれ
こがらしのあやまちともんふしまろびあそ
ひつゝのこぞりをまねべらもなれば
ねるまなびてまたのぞみ

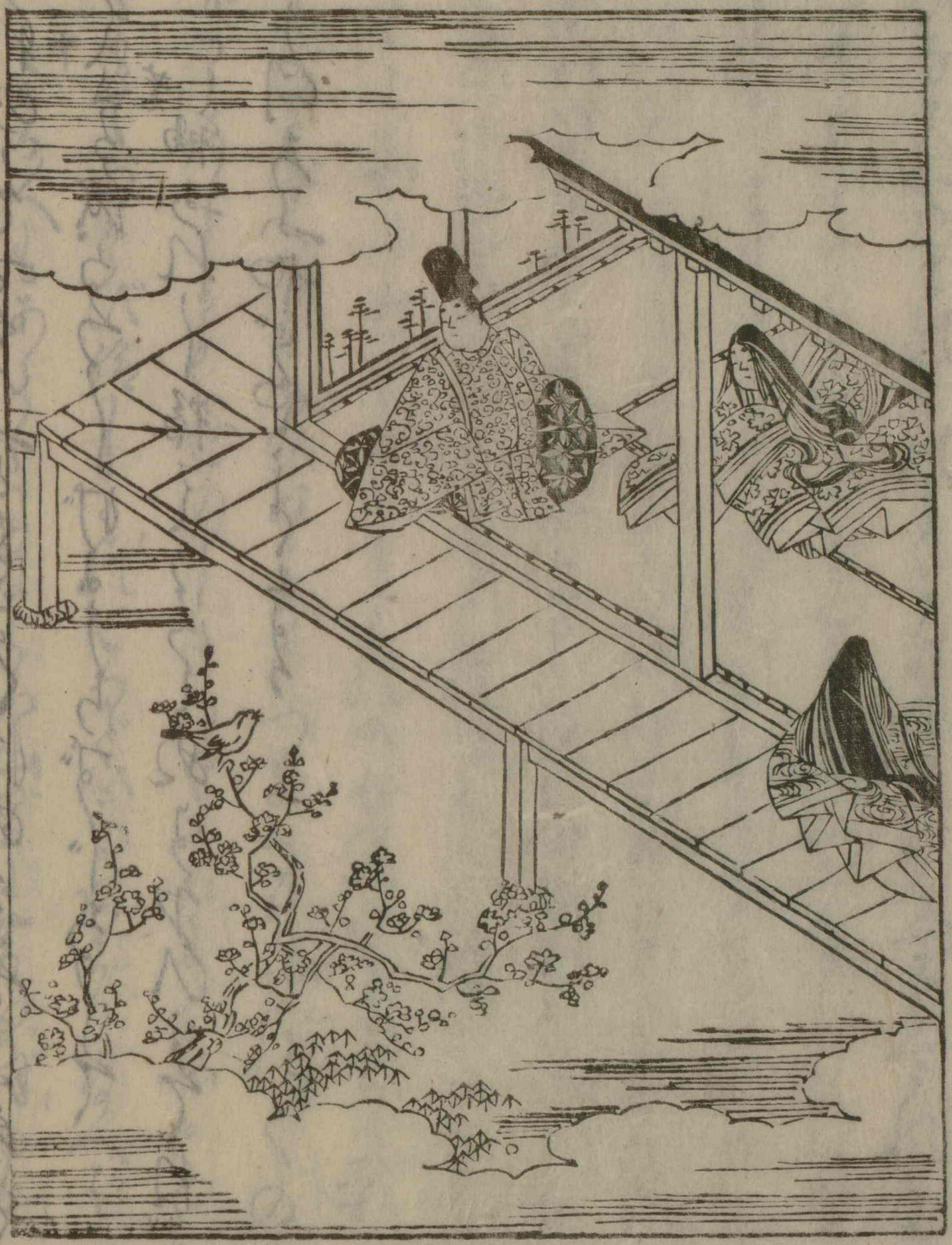
ゑゑしひとくれ
こゝろをもちせ
りはるばるきたれ
そゞろがもとめて
ゑゑんも。いでう心ぼそ
つゝこもあめふりそゝぐ。こ庵
こもりてもりけるまゝに。
そしてめべされすまゐを。
まふそのこうゝもすゝ
ゑゑれがうすべゝ
ゑゑんとふこゝろ
ゑゑあれば。ほゝゑゑる

（中ノ）
（宇治）
（中ん）
（中ん）
（句ノ）
（白ゐ）
（中ん）

人のいひあつそもそもどれおりうまもうくべ
ばーの給もせばせ
よばんごろいこそそしそ
うひ給もうて。すぐそ
ばーのすん人のそ
あいるくやよぐひとろそ也るれば
ろそそくまもえそそ給のよ
そそそまへ宿とばれぐとろろみく
給るとらくるぐの給にするようけてよろびる
そぐれ給て。そくそ也やるべそそまくるんと。
そろぐいひろて。いらぐくまれ表とさめへ
けもひるぐいくようそ
のまれそそるそ注ろろうそ

ひかれぬべきほどなれば、
げにやとこころゆるまでぞ、
見えたまふ。
うづびとぞ、ふみすぐしたまはぬ。
例のかうばしき香もうつりて、
ぐちのれ初めなどいふべきことのくさはあらじ。
いろいろの香の香もうちまぜたるにや、
なつかしきにほひうつりて、
まぎらはしもせず。
(中)
うち人もあらじ。

それのぞするふもとのうぐひす
笑ふらん梅の花ちるまでに
めうめうふやぎやうとする



（白）
ありわれをびうちまさしう
れどもくうちまもりて中にありうべ
うべきびうちまもりてそこもまもる
（並）
ぶべき中納言殿のくびうちもれ
そまもれのりのことをうけて
（白）
ぶべしうちまもるうちくのれあり
ーまやうちまもるうちくのれあり
（並）
ひいぶべき殿のうちまもるうちまもる
そこし給ひ日暮めべ
ーまゆるよ心おもしくふ
よいぶくうちまもるうちまもる
（中ノ宮女ニ）
よのうちみしのくのそも

大納
おうれいうれ
うぐひすなどの
あまれこころぐ
づさうさうこ
供の女房
すぐ
まゐゆくこれいづ
れもうへうへ
大夫くら
れれこと
中ん
あるべ
するもろうの
給ふ
なりこ

人のわらはれごとのみしてよをくらし
すぐしはべしもとれりけり七日のあかつきやうやう
むつかしうおぼえてくるまのもとにいでたつ
ほどもなくおひかけてきたるものあり
よびてみるにそのれいのめのとなりけり
人々のあやうくおぼえてうちなげくをきゝて
ちごのいはく
うばもしれば山ちかきところにこそあらめ
さてぞろぞろとぞ
ゝゝそや

69038
6AP78